



書
評

緩和ケアエッセンシャルドラッグ 第3版

著：恒藤 暁，岡本禎晃

三五変型・頁 334 2014 年 定価：本体 2,200 円＋税
[ISBN978-4-260-02023-7] 医学書院刊

<書評者> 加賀谷 肇（明治薬科大学・臨床薬剤学教室教授）

緩和ケア実践の近道といえる全スタッフ必携の書

わが国の緩和医療を牽引してきた医師の恒藤暁先生と、緩和薬物療法認定薬剤師第一号である岡本禎晃先生による待望の新版が上梓された。

著者たちは、症状マネジメントが緩和ケアの出発点というコンセプトの下、症状マネジメントの必須薬をこの本に集約している。すなわち本書を習得することが緩和ケア実践の近道といえることができる。

改訂ごとに分厚くなっていく書籍が多い中、第3改訂にもかかわらず従来のコンパクトなスリムボディーが変わらないことには敬意を表したい。

評者は2008年の初版本をグリーンブック、2011年の第2版はオレンジブックとして愛用してきた。このたびの第3版は装丁がブルーに変わったのでブルーブックと呼称を変更しようと考えている。

さて、今回の改訂で気付いたことを以下に列記してみたい。

・がんの症状マネジメントと緩和ケア薬剤情報を機能的にまとめたクイックリファレンスがこれまでと同様にとても使い勝手がよい。

・IV章「症状マネジメントの概説」は緩和医療関連ガイドラインの改訂に伴って大幅にアップデートされ、20項目に増加された。

・V章「エッセンシャルドラッグ」もアップデートされ、最新の薬剤を含め9製剤（アセトアミノフェン注射剤・オキシコドン注射剤・タペントドール・フェンタニルバツカル錠・フェンタニル舌下錠・メサドン・デノスマブ・エスシタロプラム・セルトラリン）が新規に追加された。

緩和ケアに携わる医師の処方設計、薬剤師の処方支援、看護師の症状マネジメントなどについて、簡潔で、わかりやすく、見やすい本書が威力を発揮することは間違いない。また、これから緩和ケアにかかわる医学生、薬学生、看護学生には臨床での必携の書としてお勧めしたい。